文化
戊寅
三月
新版
古市びぜんや夜
式亭三馬作
歌川國直画
伊勢名物
通神風
禁帯出
L935
シ

江戸　式亭三馬戲作

歌川國直画圖

牛車樓の總踊

櫻迺間乃花競

伊勢名物通神風

全一冊

勢陽古市　牛車樓藏板

序

朝の御霧ゆきねぐらをとち夕乃晏に雨降し寺道ハ神の宮多く。お客ハ則天下の撫養人なり。須く座にお静まるを尊れ。女郎ハ則髪と傍が奉けまつり。簪を折り衣を摺ねて遊君の名ハ傷まむるまろれ。世中多く同じ諸の娘へを見るべくおくの着を究め耳に書れの古代聴く。知ハ三絃の調子にうつし篆木蘭焼の匂を嗅で。知に麻吉の料理を慕ひ呈に諸の酒盛をさく。知に色変の不通を思ずま寅に此須の剃紋を着て髪に多くの油を付けどもしと剃ち粋とも清く澄き通神もなり。客と女郎ハ糸と傘のごく倚るひ候にを採るゆへ手へて贅をなす瀆べきず。皆がたまぞ且れぞハある我身ハ剃ち六根出寡のつまがゆる事に美貌の遊君あんあの昔むや今乃今を安寧なり天地の紅の紙にて出るる萬物の種となる。女郎も茶屋も同根なり宿屋をりくより同体のまとぞなる。二六の遊客をしてく知にかりなずとのとまれ通ても濁れも

霞亭文庫

文化戊寅櫻月　本町庵　式亭三馬戯題

三雨。

かゝくん かしこくもむかしの検校の位をかうむりしすべひとこぶの弁のぶこゝろうも我わりがたしいはえんとなすぶの弁さんかりのあらしまて八月下老人あるひハ氷人などいふべきをびぜんやの仲居とびんちくの菊むすびよりといひむさ言と縁結とよぶごくふうがでもうくちやれでもすくぶなしくみねるのこゝろハ弁赤縄生といふわけあらふと男女の二人を出むすび合せて一重とまうちまぬのえんのいとをむちうるべしいちぐのかずれもたせうの縁いちやのなさけも女房やそくかへせいれ女と一夜妻ともいへバことゆゑえんのいとむちうりさまでむすぶの弁さゆゑにそこまでおまかせであるゆゑかくへ沖からの末社を弁やとひにやとひのひいろごとのことぶおそへてら十までつるさどとしめのよおまうら業くおゝくのゝくうかくおまかまかりさてもうれてかどうまどど日の山弁のあまねくてらしみすぐらくそこらがおんべんぶしぎするべし ハテてんぽなことの

中居

小こき
仲居
幸然
楽宮人

文車
四笑
大吉

歌川國直画
式亭三馬戯作

新造櫻廼間御披露之報條

式亭三馬先生狂文

四方真顔先生狂歌

今までありふれたる櫻乃間の外に此たびはくりまうけたる踊の間大きく致し御披露委しくは此報条にあらはし候間御覧の上御遊興被成下候様偏に奉希候以上

新樓櫻廼間大踊之圖

柳々居辰斎先生画

彩色摺 二枚續

熱をどり諸かたより紙錦絵ニ繁しく多かる見ごとなるすがた呈上仕候御求被成下度しく御贔屓之程奉希候

牛車樓の總踊 櫻廼間の花競

伊勢名物通神風

合巻絵さうし 全一冊

作者画工此冊子ハあるそがおくし

柳齋製

文化十五年戊寅三月開板

江戸摺物所 中橋上槇町

右おのし御披露のため進呈ハうり物へ不仕候

勢陽古市 牛車樓 備前屋小三郎蔵板

三重県立図書館
14018414 4